

# 日本気象学会

## 1993年度秋季大会

会期：1993年10月26日（火）、27日（水）、28日（木）

会場：宮城県民会館（一般発表会場=26日午後以外）

〒980 仙台市青葉区国分町3-3-7（電話022-225-8641）

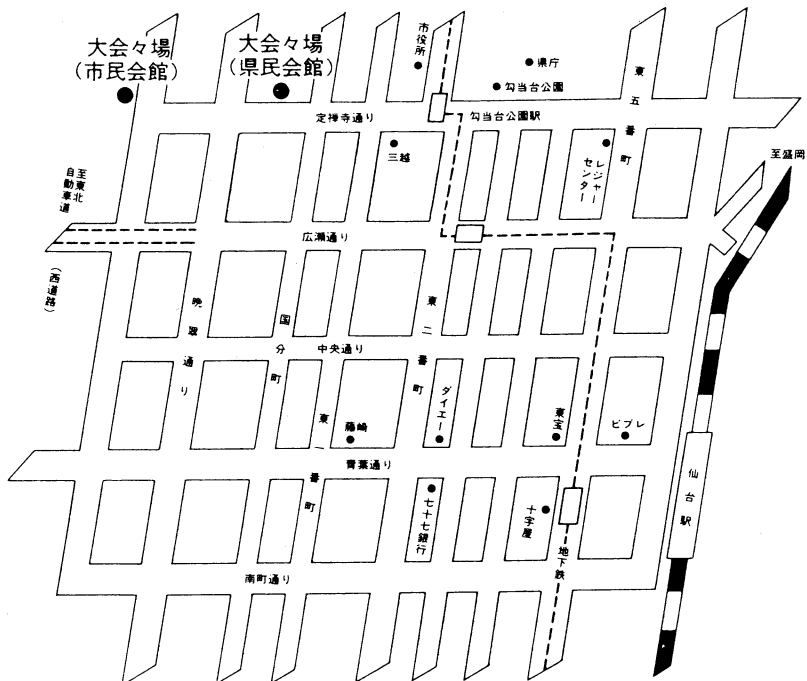
仙台市民会館（式典・シンポジウム・懇親会場=26日午後）

〒980 仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1（電話022-262-4721）

### 目次

会場案内	713
大会行事予定表	714
シンポジウム内容	715
研究発表題目	716~726

### 会場案内図



# 1993年度秋季大会行事予定

## 1. 会場：宮城県民会館（電話 022-225-8641），仙台市民会館（電話 022-262-4721）

A会場：県民会館6階 601 大会議室                      ポスター会場：県民会館5階 501 展示室  
 B会場：県民会館6階 602 中会議室  
 C会場：県民会館5階 502 展示室                      シンポジウム：市民会館                      小ホール  
 D会場：県民会館4階 401 教養室                      懇親会                      市民会館                      展示室

## 2. 会期：1993年10月26日（火），27日（水），28日（木）

（ ）は講演数（第1種-第2種と講演番号），- は座長

		A会場	B会場	C会場	D会場
10月26日 （火）	09:30～ 12:00	TOGA-COARE (17-1, A101～A118) -住 明正-	気象力学 (8-5, B101～B113) -菅田誠治-	オゾン・放射Ⅰ (13-1, C101～C114) -田口 真-	
	13:00～ 15:15	山本正野論文賞・堀内基金奨励賞授賞，奨励金授与 山本正野論文賞・堀内基金奨励賞記念講演			
	15:30～ 17:30	シンポジウム 大気・陸面過程と衛星リモートセンシング 総司会：田中正之 講演者：近藤純正・早坂忠裕・中村健治      コメンテーター：佐藤信夫・上田 博・沖 大幹			
	18:00～ 20:00	懇親会			
10月27日 （水）	09:00～ 12:30	熱帯大気 (9-3, A201～A212) -伊藤久徳- モンスーン (6-1, A213～A219) -児玉安正-	局地風 (12-6, B201～B218) -小林哲夫- -遠峰菊郎-	放射Ⅱ (16-3, C201～C219) -早坂忠裕-	エアロゾル (16-2, D201～D218) -財前祐二- 酸性雨Ⅰ (5-0, D219～D223) -畠山史郎-
	14:00～ 16:00	台風 (4-3, A251～A257) -釜堀弘隆-	降水リモートセンシング・ 雷 (9-1, B251～B260) -青梨和正-	気候変化 (12-1, C251～C263) -鬼頭昭雄-	酸性雨Ⅱ (5-0, D251～D255) -畠山史郎- 大気化学 (5-2, D256～D262) -松枝秀和-
	16:10～ 17:30	ポスター・セッション（A会場で概要紹介後，5階展示室501で講演）  (P201～P223)			
10月28日 （木）	09:00～ 12:30	境界層乱流 (4-2, A301～A306) -林 泰-- 大気地表面相互作用Ⅰ (14-1, A307～A321) -木村富士男-	気候システム・局地気候 (10-3, B301～B313) -川村隆-- 大気大循環 (6-1, B314～B320) -中村 尚-	気象教育・客観予報・数値予 報 (7-3, C301～C310) -高野 功- メソ降水系Ⅰ (4-3, C311～C317) -赤枝健治-	雲物理 (16-4, D301～D320) -水野 量-
	14:00～ 16:30	大気地表面相互作用Ⅱ (12-2, A351～A364) -山崎 剛-	物質輸送・中層大気 (7-6, B351～B363) -山崎孝治-	メソ降水系Ⅱ (8-1, C351～C359) -斉藤和雄-	環境気象・霧・都市気象 (8-4, D351～D362) -沢井哲滋-

発表件数 315件（第1種講演233，第2種講演59，ポスター23）

座長予定者については，この原稿作成時（9月3日）までに連絡のとれない方もあり，ご迷惑をおかけする場合がありますが，ご容赦願います。

講演者へのお願い 講演・質疑時間は，第1種講演は5分と2分，第2種講演は10分と5分です。

スライドを使う場合は，マウントに番号をつけ，上下をそろえて各会場の係員に提出して下さい。

大会参加費：郵便振替による前納の場合 一般会員 2,000円，学生会員 1,000円，非会員 2,500円；

当日受付の場合は 一般会員・非会員 2,500円，学生会員 1,500円。

懇親会費：郵便振替による前納の場合 一般会員 5,000円，学生会員 4,000円；当日受付の場合は左記に1,000円プラスとなります。

なお，郵便振替用紙は「天気」6月号の末尾に挿入されたものを使い，10月14日までに振り込んで下さい。

## シンポジウム「大気・陸面過程と衛星リモートセンシング」

1. 日時 大会第1日(10月26日) 15:30~17:30
2. 会場 仙台市民会館 小ホール
3. 総司会 田中正之(東北大・理)
4. 講演
 

近藤純正(東北大・理): 陸面過程と衛星リモートセンシング	コメンター: 佐藤信夫(気象庁・数値予報)
早坂忠裕(東北大・理): 雲の衛星リモートセンシング	コメンター: 上田 博(北大・理)
中村健治(通信総研): 雨の衛星リモートセンシング	コメンター: 沖 大幹(東大・生産研)

 総合討論

## 研究会のお知らせ

大会に合わせて下記の研究会が行われます(8月25日受付分)。興味のある方はご自由にご参加下さい。

1. 大気海洋相互作用に関する国際シンポジウム
 

日時: 10月25日(月) 10:00~16:10  
会場: イズミティ21(仙台市泉区七北田字松30)  
参加費無料

このシンポジウムの詳細、会場への交通等については、「天気」9月号の「学会だより」欄をごらん下さい。
2. 第4回GAIM研究会
 

日時: 10月29日(金) 09:30~12:00  
会場: 東北大学理学部会議室  
(バスで理学部前下車;  
案内図等は大会会場に掲示します)

演者: 中森 亨(東北大・理) 第四紀の気候変動のモデリング  
谷 誠(森林総研) 山岳地における降水の分布  
島田緑子(京大・農) 気孔コンダクタンスの計測とモデリング

問い合わせ先: 及川武久(筑波大・生物科学系)  
電話およびFAX: 0298-53-6661
3. 極域研究連絡会
 

日時: 10月27日(水)  
17:30(大会発表終わり次第)~19:30  
場所: 秋季大会会場(詳細は当日掲示します)  
テーマ: 「これからの南極・北極研究, 観測」  
世話人: 山内 恭(極地研)
4. オゾン研究連絡会
 

日時: 10月27日(水) 18:00~20:00  
場所: 秋季大会会場  
責任者: 牧野行雄(気研・物理), 川平浩二(富山高専)
5. 都市気候研究会
 

日時: 10月29日(金) 午後  
場所: 仙台市内  
世話人: 一ノ瀬俊明(東大・先端研)  
詳細は大会会場に掲示します。

なお「メソ気象研究会」はありません。

## 次期春季大会の予告と「スペシャル・セッション」のテーマ募集

1994年度春季大会(東京)は5月24日(火)~26日(木)にお茶の水スクエア(千代田区神田駿河台1-6)で開催されます。大会告示は「天気」12月号に掲載します。講演申込締切は2月下旬を予定しています。

春季大会のスペシャル・セッションを下記の要領で募集します。なお、テーマや申込総数によっては講演企画委員会で調整をする場合もあり得ますので、ご了承下さい。

記入事項:

1. セッションのテーマ
  2. 趣旨説明(400字程度)
  3. 呼びかけ人およびその連絡先
- 以上は「天気」12月号または1月号に掲載されます。
- 申込先: 〒305 茨城県つくば市長峰1-1  
気象研究所 予報研究部内  
講演企画委員会(藤部文昭)
- 申込期限: 1993年11月26日(金) 必着

なお1994年度秋季大会は九州大学(福岡)で開催される予定です。

(    は第2種講演を,     は講演者を表す, [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## B会場

## TOGA-COARE

座長:住 明正(東大・気候システム)

- A101 藤谷徳之助・萩野谷成徳(気研):太平洋西部赤道海域における海面熱収支
- A102 塚本 修(岡山大・教養), 石田廣史・林 美鶴(神戸商船大), 板野稔久・光田 寧(京大・防災研):西太平洋赤道域での乱流フラックスの直接測定(2)[TOGA-COARE]
- A103 沖 理子(東大・気候システム), 沼口 敦(国立環境研), 中村晃三・坪木和久・三沢信彦(東大・海洋研), 児玉安正(弘前大・理), 浅井富雄(広島大・総合科学):白鳳丸によるTOGA-COARE高層気象観測報告
- A104 米山邦夫・安藤健太郎(海洋センター), 藤谷徳之助(気研・応用):東経156度の赤道における大気と海洋の鉛直分布—1993年2月5~14日の「なつしま」停船観測結果—
- A105 Ding Y.・A. Sumi・Shen X.(東大・気候システム): Structure of the Mixed Layer and Estimate of Air-Sea Fluxes during TOGA-COARE
- A106 沼口 敦・高藪 緑(国立環境研):赤道西太平洋における混合ロスビー重力波型擾乱:TOGA-COARE 10Pにおける事例解析
- A107 中澤哲夫(気研・台風), 住 明正・沖 理子(東大・気候システム):スーパークラスターに伴う循環場-GMS, ERS-1の風データを用いて
- A108 西 憲敬(京大・防災研), 住 明正(東大・気候システム):TOGA COARE期間中の西太平洋の大規模場の特徴
- A109 高橋 勲(九大・理), 徳野正己(気象衛星センター):南太平洋・赤道域Manus島での降水機構—TOGA-JCOAREプロジェクト[S]
- A110 城岡竜一(北海道農試), 上田 博・木下 温(北大・理), マヌス観測グループ:TOGA-COAREマヌス島で観測された降水を伴わないエコーによる積乱雲からのoutflowの検出[S]
- A111 佐藤賢介(北大・低温研), マヌス観測グループ:熱帯西太平洋における積雲対流系のメソスケール構造(II)
- A112 上田 博・菊地 理・木下 温・高橋暢宏・佐藤芳昭(北大・理), マヌス観測グループ:TOGA-COARE, マヌス島レーダー観測(VI)—クラウドクラスターからの下層outflowの先端に形成された雲列—
- A113 菊地 理・上田 博(北大・理), マヌス観測グループ:TOGA-COARE マヌス島レーダー観測(VII)—GMSによる対流性領域と層状性領域の判別—
- A114 牛山朋来・佐藤賢介・遠藤辰雄(北大・低温研), マヌス観測グループ:西部熱帯太平洋におけるレーダーによる推定降水量の変化と潜在不安定との関係
- A115 黒田芳史(海洋センター):TOGA COARE集中観測期間中の海洋の概況
- A116 竹内謙介・鈴木立郎・伊藤進一(北大・低温研), 乙部弘隆(東大・海洋研):白鳳丸KH-92-5航海, 定点海洋観測における海洋上層の水温, 塩分変動
- A117 巒田邦夫・稲葉栄生(東海大・海洋):西部赤道太平洋における上層流速場の長期連続観測
- A118 金子 新(広島大・工), 川建和雄(九大・応力研), 江田憲彰(広島大・工), 竹内謙介(北大・低温研):係留式ADCPによる赤道海流の連続観測結果

## 気象力学

座長:菅田誠治(国立環境研)

- B101 高丘圭一・宇加治一雄(福岡大・理):環状傾圧波の数値シミュレーション—自由水面の場合と固定水面の場合との比較—
- B102 玉木克美・宇加治一雄(福岡大・理):傾斜した底を持つ回転水槽中に生じる傾圧波動(3)
- B103 森 厚・木村龍治(東大・海洋研):ディッシュパン型の傾圧不安定実験に見られる微小擾乱—まとめ—
- B104 菅田誠治(国立環境研), 余田成男(京大・理):回転水槽中の定常傾圧波動でのラグランジュ運動と熱輸送
- B105 竹広真一・林 祥介(東大・理):回転球殻のブジネスク対流—赤道加速に関する考察
- B106 石渡正樹・林 祥介(東大・理):凝結性成分を主成分とする大気の数値計算
- B107 金久博忠(気研・予報):東西方向に非一様な基本場の中の擾乱の非指数関数的な増幅
- B108 宮崎 武・平原和紀(電通大), 花崎秀史(国立環境研):シャープ場における楕円渦領域のBaroclinic不安定性—準地衡風近似による解析—
- B109 余田成男・石岡圭一(京大・理), 酒井 敏(京大・総合人間):強制ロスビー波による極渦崩壊の数値実験—動画解析—[V]
- B110 伊賀啓太(東大・海洋研):水路内の回転浅水波方程式系における混合モードについて
- B111 花崎秀史(国立環境研):非定常山岳波の強非線形理論(Grimshaw-Yi方程式)とNavier-Stokes方程式の解
- B112 黒崎 聰・山中学・橋口浩之・津田敏隆・深尾昌一郎(京大・超高層):MUレーダー3週間連続観測に基づく鉛直渦拡散係数の推定方法の比較検討
- B113 真木太一(熱帯農研), 潘 伯榮(中国科学院・新疆生物土壤沙漠研):夏季, 中国の乾燥地トルファンにおける2列の防風ネットによる気象緩和[S]

大会第1日〔10月26日〕 9:30~12:00

(    は第2種講演を,     は講演者を表す)

### C 会場

#### オゾン・放射 I

座長: 田口 真 (東北大・理)

- C101 堤之智・牧野行雄・財前祐二・池上三和子 (気研・物理): 航空機による日本からフィリピン南方上空における対流圏オゾンの測定
- C102 塩谷雅人 (京大・理), 長谷部文雄 (NASA-GSFC): SAGEデータに見られる赤道域における成層圏オゾンの長周期変動について
- C103 千葉長・山崎孝治・小寺邦彦 (気研・気候): 赤道域のオゾン極小域が冬半球側にあることについて
- C104 川平浩二・新田 亘 (富山高専), 廣岡俊彦 (九大・理): オゾンホール最近の水平構造の変動について一波動解析の結果一
- C105 牧野行雄・忠鉢 繁・佐々木 徹・堤之智 (気研), 近藤幸治 (高層气象台), 二階堂義信 (気研): 日本上空成層圏HCl, HF緯度分布の赤外分光測定; 1992年12月
- C106 小出理史・岡野章一・田口 真・福西 浩 (東北大・理): レーザーヘテロダイニング分光計による南極オゾンホール観測計画
- C107 岡林昌宏・岡野章一・田口 真・福西 浩 (東北大・理): 高高度気球搭載光学オゾンゾンデによる成層圏オゾン高度分布の観測
- C108 重松直子・田口 真・小出理史・岡野章一・福西 浩 (東北大・理), 中根英昭 (国立環境研): 1992年12月/1993年1月のつくば上空のオゾン変動の解析
- C109 小竹知紀・福西 浩 (東北大・理), 中根英昭 (国立環境研): TOMSデータを用いた札幌上空の1月のオゾン全量変動の解析
- C110 内野 修・藤本敏文・永井智広 (気研・衛星), H. Jager (IFU): ピナトッポ火山起源エアロゾルのオゾン層へのインパクト
- C111 大和田浩美 (甲府地台), 宮内正厚 (気大): 紫外線A領域の測定とその変動
- C112 荒生公雄 (長崎大・教育): 潮岬と土佐清水における山本の混濁係数: 1990-92
- C113 深堀正志・青木忠生・青木輝夫 (気研・物理): 低温下でのフロン12の吸収帯強度の測定
- C114 廣野幹彦 (新潟大・工): CO<sub>2</sub> 4.3 μm帯のwingにおける吸収

### D 会場

大会第1日のD会場のセッションはありません

大会第2日 午前のプログラム(次々ページ)の続き

#### エアロゾル

- D217 松本 潔・田中 浩 (名大・水圏研): 硝酸エアロゾルの生成・消滅反応について
- D218 古賀聖治 (資源環境研): 硫黄化合物濃度の季節変化に関する大気化学的考察

#### 酸性雨 I

座長: 畠山史郎 (国立環境研)

- D219 畠山史郎・村野健太郎 (国立環境研), 坂東 博 (大阪府大), 渡辺征夫 (公衆衛生院), 大和政彦 (群馬大・教養), 秋元 肇 (東大・先端研): '92IGAC/APARE/PEACAMPOT航空機調査一日本海上空の高濃度SO<sub>2</sub>
- D220 兼保直樹・林 正康・蒲生 稔・竹内浩士 (資源環境研): 日本海西部から東シナ海上で冬季にみられる高濃度汚染気塊(3)一強風内で観測されたプルーム状構造一
- D221 杉山 実・石坂 隆 (名大・水圏研): 冬季日本海沿岸における降水・エアロゾルの硫黄同位体比に関する観測
- D222 片谷教孝・吉川雅修 (山梨大・工), 風間由香 (日本電気777機), 吉川友章 (気研・応用), 小林恵三 (産業公害防止協会): 関東地方の酸性降水物の発生源一 流跡線データを用いた因子分析一
- D223 吉川友章・佐藤純次・栗田 進 (気研・応用): 粒子状物質の降雨中拡散実験[2]

(    は第2種講演を、    は講演者を表す。[S]=スライド使用予定、[V]=VTR使用予定)

## A会場

## B会場

## 熱帯大気

座長：伊藤久徳（和歌山大・教育）

- A201 津田敏隆・清水 厚・足立樹泰（京大・超高層），H. Wiryo-sumarto（インドネシア航空宇宙局），SriWoro B.H.（インドネシア科学技術応用評価庁）：インドネシアにおけるラジオゾンデキャンペーン観測結果の速報
- A202 S. B. Sipayung・H. Tanaka（名大・水圏研）：THE SPECTRUM ANALYSIS OF METEOROLOGICAL ELEMENTS IN INDONESIA
- A203 高藪 縁（国立環境研）：熱帯雲擾乱に現われる対流圏赤道波
- A204 尾瀬智昭（気研・気候）：気象研大気モデルの熱帯域の変動
- A205 中島健介（東大・気候システム）：wave-CISKとWISHEの卓越スケール
- A206 吉崎正憲（気研・台風）：赤道ベータ面において $\delta(t) \exp(-a^2 x^2) D_n(y)$ の形をした熱源によって励起される赤道波の強さについて
- A207 山崎信雄・村上勝人（気研・台風）：スーパークラスタースケールでのエネルギー収支の計算-コンポジット法による解析-
- A208 長谷川史裕・廣田 勇（京大・理），佐藤 薫（東大・気候システム）：ラジオゾンデ観測データを用いた赤道成層圏重力波の解析
- A209 塩谷雅人（京大・理），J. Gille（NCAR），A. Roche・J. Kumer（Lockheed Palo Alto Res. Lab.）：UARS-CLAESデータから検出された下部成層圏赤道ケルビン波について
- A210 丸山健人（気研・予報）：2日前後の周期帯の赤道波による西風運動量の上向き輸送
- A211 張 代洲・田中 浩（名大・水圏研）：赤道成層圏モデルによる内部重力波の性質
- A212 内藤勲夫・菊地直吉（国立天文台）：赤道対流圏帯状風の準7ヵ月振動（QSO）

## モンスーン

座長：児玉安正（弘前大・理）

- A213 村崎万代（名古屋地台），木田秀次（京大・理），千葉 長（気研・気候）：軸対称モデルにおけるITCZの形成位置について（その2）
- A214 保坂征宏・林 祥介（東大・理）：熱帯域にある局所的な暖水域が大気に与える影響（第3報）
- A215 植田宏昭・安成哲三（筑波大・地球科学），川村隆一（防災科研）：夏季西太平洋の大規模対流活動と大気循環場の季節変化に見られるジャンプ現象
- A216 村上多喜雄（ハワイ大），松本 淳（東大・地理）：熱帯西部北太平洋における夏のモンスーン
- A217 二宮洸三（気象庁），小林あき（気象庁・数値予報）：夏期アジアモンスーン域の主要水蒸気流束系
- A218 李 越豪・安成哲三（筑波大・地球科学）：OLR（赤外長波放射量）でみた広域アジアモンスーンの年々変動
- A219 児玉安正（弘前大・理）：水惑星モデルによる亜熱帯前線帯(STFZ)の研究(序報)

## 局地風

座長：小林哲夫（九大・農）

- B201 大河内康正（八代高専）：海風による積雲形成のシミュレーション
- B202 永井晴康・山澤弘実（原子力研）：3次元数値モデルの風速場再現性検証
- B203 余 偉明（電通大），W. L. Physick・P. Manins（CSIRO）：南オーストラリアにおけるAdelaide Gully Wind (Severe Downslope Wind) に関する数値実験
- B204 遠田正和・木村富士男（東北大・理）：地形に沿った座標系による斜面風の線形モデル
- B205 葵形恒男（東北農試），木村富士男（東北大・理）：深い盆地内における日中の昇温過程
- B206 森 牧人・小林哲夫（九大・農）：太宰府四王寺山の斜面温暖帯と冷気流
- B207 高橋俊二（気研・応用），嶋村 克・田沢秀隆・楡尾守昭（気象庁・予報），五ノ井信雄（仙台管区）：大気汚染数値モデルの開発(1)-関東平野の局地前線と都市効果-
- B208 近藤裕昭（資源環境研）：高濃度大気汚染をもたらす局地不連続線の数値実験
- B209 水野建樹・下形茂雄（資源環境研）：関東地方に出現する局地不連続線-水槽実験による考察-
- B210 木下 仁（気象庁・通報）：シアライン上に現れた波状高積雲-1993年3月1日の事例解析-
- B211 北島尚子（気大），小幡紀一・上井哲也（気象庁・海上気象），本田裕夫・潮崎敏広（神戸海洋）：屋久島周辺の局地風の観測
- B212 菅野洋光（東北農試）：八戸におけるヤマセの風向別にもた性質の差異について

座長：遠峰菊郎（防大・地球科学）

- B213 大野久雄・鈴木 修・楠 研一（気研・衛星）：低層ウインド・シアを強める小規模強風コア-海風前線帯付近の一般風場のドップラーレーダー観測-
- B214 高木久之（気象協会），北田敏廣（豊橋技術科学大），筑紫文夫（気象協会），小川 弘（テクノ中部）：海風時，沿岸部で得られたドップラーソングデータのk-ε乱流モデルによる解析
- B215 小林文明・内藤玄一（防大・地球科学）：ドップラーソーダによる三浦半島東岸の大気観測(1)-強風時の下層風系の特徴-
- B216 都築信明・内藤玄一・小林文明・鳥谷 均（防大・地球科学）：ドップラーソーダによる三浦半島東岸の大気観測(2)-夏季における内陸低気圧と南風との関係-
- B217 大野裕一・増田悦久・中村健治（通信総研）：CRLウィンドプロファイラとオメガゾンデとの比較観測実験
- B218 花房龍男・藤谷徳之助・加藤真規子（気研）：各種風速計による風速値の比較

## 大会第2日〔10月27日〕 9:00~12:30

( )は第2種講演を, ~は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## D会場

## 放射II

座長: 早坂忠裕 (東北大・理)

- C201 浦野 明 (大成建設): 人工構造物の短波放射吸収量の数値シミュレーション
- C202 中山里美・太田幸雄・村尾直人 (北大・工):  $\delta$ -P<sub>3</sub>近似法を用いた光化学作用フラックスの計算
- C203 小林隆久 (気研・衛星): 鉛直差分及び緩和法を用いた3次元放射伝達方程式のDOM解
- C204 中島 孝・中島映至 (東大・気候システム): 雲物理量リトリバルにおける変数削減のシミュレーション実験
- C205 門倉真二・小林博和・下田昭郎 (電力中研): 放射スペクトル伝達モデルの高速計算スキーム(II)
- C206 下田昭郎・小林博和・門倉真二 (電力中研): IMGデータを用いた気温及び大気中微量気体の推定手法(I)
- C207 石尾和紀・太田幸雄・溝口 勲・村尾直人・山形 定 (北大・工): 大気中の黒色純炭素の光学特性
- C208 早坂忠裕・目黒靖彦・田中正之 (東北大・理), 笹野泰弘・林田佐智子 (国立環境研), 高村民雄 (防大・地球科学): 太陽放射観測およびライダー地上観測によるエアロゾルの光学的性質の推定
- C209 高島 勉 (気研・衛星), 山口 靖 (地質調査所): 海洋性エアロゾル偏光観測
- C210 内山明博・浅野正二・塩原匡貴・深堀正志 (気研): 巻層雲の放射特性の地上観測(2)
- C211 塩原匡貴・内山明博・浅野正二 (気研・気候), J. D. Spinhirne (NASA-GSPC): 第二期FIRE巻層観測におけるサンフォトメーター観測[S]
- C212 落合 治・菅野正人 (北大・環境), 菊地勝弘・遊馬芳雄 (北大・理), 田中正之・早坂忠裕 (東北大・理), 武田喬男・藤吉康志 (名大・水圏研): 層積雲の構造とその放射特性(2)
- C213 井上豊志郎 (気研・台風), S. Ackerman (ライスソシ大): Split Windowによる雲型と雲放射強制力
- C214 山内 恭 (極地研), T. P. Charlock (NASA-LaRC): ERBEデータからみた南極氷床上大気の放射効果
- C215 川村 宏 (東北大・理), 枝松芳枝 (東北緑化環境保全(株)): AVHRR/NOAAを用いた地上気温推定に関する研究(I)
- C216 真野裕三 (気研・気候): 衛星からの地表全天日射量の推定(2)
- C217 日暮明子 (東北大・理), 中島映至 (東大・気候システム), 早坂忠裕 (東北大・理): 衛星観測によるエアロゾル1次散乱アルベドの推定
- C218 Zhao F.・T. Nakajima (東大・気候システム): A Method for Simultaneous Determination of Aerosol Properties and Water Leaving Reflectance from Measurements of CZCS
- C219 中島映至 (東大・気候システム), N. Dejour (CNRS): 海色放射計による衛星リモートセンシングと地上支援体制についての考察

## エアロゾル

座長: 財前祐二 (気研・物理)

- D201 黄 哲叢・甲斐憲次 (筑波大), 塩原匡貴・財前祐二 (気研), 光田 寧 (京大・防災研): 東アジアの沙漠地域におけるエアロゾルの光学的厚さの季節変化[S]
- D202 大和政彦 (群馬大), 田中 浩・石坂 隆 (名大・水圏研), 岩坂泰信・長谷正博 (名大・STE研), 荒生公雄 (長崎大・教育): 黄砂イベント時におけるエアロゾルの粒径分布の時間的挙動と粒子の形状[S]
- D203 森 育子・岩坂泰信・松永捷司・林 政彦・村井康浩・長谷正博・中田 澁 (名大・STE研): 日本上空のエアロゾルの個数粒径分布
- D204 岩坂泰信・樋 成顔・柴田 隆・林 政彦 (名大・STE研): 黄砂の輸送と輸送高度の湿度
- D205 財前祐二・池上三和子・岡田菊夫・牧野行雄 (気研), 光田 寧 (京大・防災研): 張掖におけるエアロゾル濃度の測定-その3-
- D206 岩坂泰信・林 政彦・柴田 隆・長谷正博・中田 澁・小塩哲朗 (名大・STE研): 成層圏エアロゾル量の減衰について
- D207 内野 修・永井智広・藤本敏文 (気研・衛星), W. A. Matthews (NIWA), H. Jager (IFU): グローバルライダーネットワークによるピナトッポ火山雲の観測
- D208 石原博成 (富士通エアファイバー(株)), 太田幸雄・村尾直人・溝口 勲 (北大・工): 北極圏大気汚染物質の測定とその気候影響評価
- D209 岩坂泰信・松永捷司・柴田 隆・林 政彦・村井康浩・森育子・長谷正博・中田 澁 (名大・STE研), 藤原玄夫・秋吉英治 (福岡大・理), 山崎孝治 (気研・気候), 近藤幸治 (高層気象台), 中根英昭 (国立環境研): アラスカにおけるライダー大気観測
- D210 大和政彦 (群馬大), 田中 浩 (名大・水圏研), 坪木和久・木村龍治 (東大・海洋研), 遊馬芳雄 (北大・理), 遠藤辰雄 (北大・低温研), 馬谷 均 (防大・地球科学): カナダ北極圏大気エアロゾルの化学組成と粒径分布[S]
- D211 太田幸雄・村尾直人・溝口 勲・堀 雅裕 (北大・工): 微小大気エアロゾルの組成分析
- D212 柴田 隆・岩坂泰信・林 政彦・小塩哲朗 (名大・STE研): ラマンライダー大気観測
- D213 三浦和彦・中江 茂・白井健司・清水康宏 (東京理大・理): 陸上で捕集した個々の海塩粒子の変質について(その2)
- D214 毛利英明・岡田菊夫・高橋俊二 (気研・応用): 洋上で採集された巨大硫酸塩粒子
- D215 杉田孝史・近藤 豊・小池 真・岩坂泰信 (名大・STE研), R. Salawitch (Harvard大), P. A. Amedieu (CNRS): 中緯度成層圏におけるエアロゾルと窒素酸化物との関係-気球観測とモデル-
- D216 Y. Ishizaka・P. S. Sarwono (名大・水圏研): FREEZING POINTS OF AEROSOL SIZE ACID DROPLETS UNDER THE STRATOSPHERIC CONDITIONS (I) [V]

前々ページに続く

## 大会第2日〔10月27日〕 14:00～16:00

( )は第2種講演を, ~~~~~は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## B会場

## 台風

座長:釜堀弘隆(気研・台風)

- A251 岡村博文(気研・台風): AMeDASによる台風統計解析
- A252 J.-K. Park(Inje Univ.), S.-E. Moon(Pusan Natl. Univ.):  
The Relation between the ENSO event and Typhoon  
visit to Korea
- A253 釜堀弘隆(気研・台風): スペクトラム期間中の台風の予  
報実験
- A254 杉 正人(防災科研), 佐藤信夫(気象庁・数値予報):  
気象庁全球モデルを高分解能大気循環モデルとして用い  
てシミュレートされた台風(2)
- A255 小林ちあき・岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 気象庁全球  
客観解析に表現された熱帯低気圧の精度について
- A256 竹内延夫・松下英樹(千葉大・映像隔測センサ), 徳野正己  
(気象衛星センサ): 台風に伴って現れる核状オゾンとCDO  
の形状の比較
- A257 松下英樹・竹内延夫(千葉大・映像隔測センサ): TOMSデー  
タに現れた台風に吹き込む渦状オゾンの気象学的検討

## 降水リモートセンシング・雷

座長:青梨和正(気研・予報)

- B251 勝俣昌己(北大・環境), 上田 博・菊地勝弘(北大・理):  
SSM/I 85GHz輝度温度データを用いた北海道西岸帯状雲の  
解析
- B252 宮本一彦・内藤玄一(防大・地球科学), 佐々木保徳・中  
村 亘(海洋センサ), 小山 登(国際気象海洋研): SSM/I  
データの解析により抽出した熱帯大気の強い降雨域
- B253 青梨和正(気研・予報): SSM/I輝度温度データを用いた  
降水域の判別について
- B254 沖 理子(東大・気候システム): レーダーアメダス合成図に  
おける最適なきい値
- B255 牧原康隆(気研・予報): 複数レーダーと地上雨量計によ  
る海上降水量推定の一方法
- B256 立平良三(電通大), 鈴木 修(気研・衛星): ドップラ  
ーレーダーによるメソスケール風速場の推定
- B257 遠峰菊郎・内藤玄一・小林文明・川端隆志・宮本一彦・深  
渡瀬角太郎・吉田文二(防大・地球科学), 若井武夫・酒  
井 勉(北陸電力研): ドップラレーンダーによる鉛直流と  
冬季雷レーダーエコーの局地変化
- B258 小林文明・内藤玄一(防大・地球科学): 海岸域における  
大気下層の変化と冬季雷雲の発達(2)
- B259 道本光一郎・深渡瀬角太郎・遠峰菊郎・小林文明・小滝  
昇(防大・地球科学), 長屋勝博・長田正嗣(日本無線研):  
小松飛行場周辺の冬季航空機被雷に関する研究(第4報)
- B260 遠峰菊郎・吉田文二・緒方秀明・和田保則・深渡瀬角太郎  
(防大・地球科学), 若井武夫・酒井 勉(北陸電力研):  
赤外衛星写真から見た冬季雷



## 大会第2日〔10月27日〕 14:00~16:00

(    は第2種講演を,     は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## D会場

## 気候変化

座長: 鬼頭昭雄 (気研・気候)

- C251 川村隆一・杉 正人 (防災科研), 佐藤信夫 (気象庁・数値予報): 北半球中高緯度大気の10年スケールの変動—気象庁全球モデルによる再現—
- C252 関根義彦 (三重大・生物資源): 中緯度域の大気と海洋がカップルした変動
- C253 五十嵐弘道・安成哲三 (筑波大・地球科学): ユーラシア大陸における積雪深の年々変動と大気循環
- C254 新田 勅・可知美佐子 (東大・気候システム): 熱帯太平洋降水量の長期変動
- C255 西森基貴・安成哲三 (筑波大・地球科学): 日本の降水量変動の地域性に影響をおよぼす極東域および北半球の循環特性
- C256 中尾正義 (名大・水圏研), 東 久美子 (防災科研), 韓建康 (蘭州水河凍土研): 中国西崑崙山域における最近の降水量の減少
- C257 岩嶋樹也 (京大・理), 山元龍三郎 (気象協会・関西): 降水量の長期変動に関する解析(II)
- C258 大沢慶吉 (日大・生産工): 情報化時代における平年値のあり方について
- C259 田中 博・木村和央 (筑波大・地球科学): 順圧大気モデルを用いた大気自然変動のスペクトル解析—1000年RUNの結果について—
- C260 磯部英彦・高野清治・栗原弘一 (気象庁・長期予報), 安藤 正 (気象庁・海洋): 1991年以降のENSOサイクルの推移について
- C261 木本昌秀 (気研・気候), 吉川郁夫 (気象庁・数値予報), 石井正好 (気象庁・海洋): 海洋大循環モデルで見た'93年前半の海況変動
- C262 石井正好 (気象庁・海洋), 木本昌秀 (気研・気候), 吉川郁夫 (気象庁・数値予報): '93年前半北太平洋中緯度の海面水温偏差の成因
- C263 吉川郁夫 (気象庁・数値予報), 木本昌秀 (気研・気候), 石井正好 (気象庁・海洋): 1993年海面水温のインパクト (数値実験)

## 酸性雨II

座長: 畠山史郎 (国立環境研)

- D251 北爪 均 (宮城県柴田高), 佐藤弓子・渡辺 明 (福島大・教育): 低pH降水出現時の気象特性について
- D252 山川修治・山口武則 (農環技研): つくばにおける酸性雨の総観気候学的特性
- D253 高橋庸哉 (北海道教育大), 速藤辰雄 (北大・低温研), 村本健一郎 (金沢大・工), 野口 泉 (北海道環境科学センター): 降雪粒子の酸性化機構(その2)
- D254 箕浦宏明・美澤史帆 (豊田中央研): 雨水中のイオンと気象因子との相関解析
- D255 渡辺幸一・皆巳幸也・石坂 隆・田中 浩 (名大・水圏研), 鶴田治雄 (農環技研): 乗鞍岳における大気中および霧水中の過酸化水素濃度の測定

## 大気化学

座長: 松枝秀和 (気研・地球化学)

- D256 川上修司・近藤 豊・小池 真・H. Zeireis (名大・STB研): 西太平洋における対流圏のNO<sub>y</sub>, NO
- D257 窪田和彦 (気象協会), 村尾直人・太田幸雄 (北大・工): 対流圏下層におけるPANの濃度変動
- D258 中澤高次・菅原 敏・田中正之 (東北大・理): 大気中メタン濃度の最近の増加率変化
- D259 深沢達矢・田中信壽・太田幸雄・村尾直人 (北大・工), 井上雄三 (公衆衛生院): 月ヶ湖及びシベリアにおけるメタン放散に関する研究
- D260 松枝秀和・井上久幸 (気研・地球化学): 西部太平洋上における上層大気中の微量気体濃度について
- D261 青木周司・牛尾収輝・小野延雄 (極地研): グリーンランド海における表層海洋中の二酸化炭素分圧測定
- D262 山本 晋・村山昌平・兼保直樹・石坂丞二 (資源環境研), 後藤浩一 (関西総合環境センター): 中部太平洋における大気及び海洋間のCO<sub>2</sub>の交換量について(その3)

## 大会第3日〔10月28日〕 9:00~12:30

( )は第2種講演を, ~は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定

## A会場

## B会場

## 境界層乱流

座長: 林 泰一(京大・防災研)

- A301 白木洋也・平賀邦夫・尾本 彰(東京電力), 高橋圭一・桃井和好(気象協会): 海上における大気の拡散幅及び安定度について
- A302 加藤真規子・花房龍男(気研), 有沢雄三(気象協会), 日比一喜(清水建設): 高層ビル側面での乱流スペクトルの野外と風洞の比較-消火用ヘリコプターの安全運航のための基礎実験-
- A303 半場藤弘(東大・生産研): 大気境界層のスカラーの乱流モデル
- A304 林 泰一(京大・防災研): ウェイブレット変換による大気接地層中の運動量輸送の解析
- A305 橋口浩之・山中大学・深尾昌一郎(京大・超高層): 赤道域大気境界層のメソスケール風速変動スペクトル
- A306 小杉健二(防災科研・新庄), 西村浩一・前野紀一(北大・低温研): スプラッシュ関数を用いた吹雪の数値シミュレーション(1)-跳躍運動における粒子と雪面の衝突過程の役割-

## 大気地表相互作用 I

座長: 木村富士男(東北大・理)

- A307 尾関俊浩・秋田谷英次・成瀬廉二(北大・低温研): 融雪期の積雪表面に形成されるサン・クラストの観測
- A308 中川清隆(上越教育大・自然): オングル海峡定着氷上の微気象観測[S]
- A309 萩野谷成徳(気研・物理): 広域海面熱収支の自動観測(5)
- A310 真野裕三(気研・気候): 雲を伴う混合層における放射の影響について-モデル的研究-(序)
- A311 堀口光章・光田 寧(京大・防災研): 1991年1月奄美大島における下層雲と境界層の観測(第2報)
- A312 萩野谷成徳・木下宣幸(気研・物理), 陳 隆助・李 維亮(中国気象科学研究院), 段 廷揚・肖 弟權(成都気象学院), 劉 建華(西藏自治区気象局): チベットにおける自動気象観測
- A313 大畑哲夫(名大・水圏研): チベット高原永久凍土帯の陸面過程の研究(1)放射フラックスの季節変化
- A314 近藤純正・杉本荘一・菅原広史(東北大・理): 放射温度計による地表面温度の観測
- A315 近藤純正・石田祐宣(東北大・理): 微風時の顕熱の交換速度
- A316 松島 大・近藤純正(東北大・理): 地表面熱収支の線形性
- A317 益子直文(気象庁・数値予報): 陸面過程におけるパラメタリゼーションの評価
- A318 江守正多(東大・教養), 光本茂記(国立環境研): 地中を多層化した陸地表面モデル(第3報)モデルの地中下端境界条件について
- A319 広田知良・福本昌人・城岡竜一・村松謙生(北海道農試): 日平均地温推定のためのForce-Restore Method
- A320 馬淵和雄・佐藤康雄(気研・応用), 木田秀次(京大・理): 植生によるCO<sub>2</sub>の吸収・放出過程を導入した陸地表面モデル(序報)
- A321 高田久美子(東京電力・技術研), 時岡達志(気研・気候): 『1.5次元モデル』による永久凍土の気候感度実験(II)

## 気候システム・局地気候

座長: 川村隆一(防災科研)

- B301 篠田雅人(都立大・理): 衛星NOAAデータにみられる熱帯アフリカの降水と植生活動の季節的位相差
- B302 鈴木恒明・田中正之(東北大・理), 中島映至(東大・気候システム): 気候変動における巻雲の微物理過程のフィードバック(2)
- B303 萬納寺信崇(気象庁・数値予報): フロリダ州立大学全球スペクトルモデルに組み込んだ雲水予報スキームとその効果
- B304 時岡達志・野田 彰・中川慎治・鬼頭昭雄・二階堂義信・本井達夫・行本誠史(気研・気候): 全球大気海洋結合モデルの開発(II)結合モデルにおける海水のふるまい
- B305 伊藤進一・竹内謙介(北大・低温研): 海洋大循環モデルの海表面における熱塩境界条件に関する考察
- B306 阿部彩子(東大・気候システム): Quaternary transitionはなぜ起こったか?
- B307 水越允治(三重大・人文): 近世小氷期の中日本における気象・気候条件(2)-18世紀末から19世紀にかけて-
- B308 森山 茂(日大・生産工), 野本岳志(東大・農), 湖上辰一(日大・生産工): 閉鎖生態系を用いた地球環境の生成に関する研究(その3)
- B309 和田 誠(極地研): 南極昭和基地の気柱雲水量の季節変化
- B310 佐々木秀孝(気研), 木田秀次(京大・理), 小出 孝・千葉 長(気研): 局地気候モデルの開発(8)-GSPMへのネスティング-
- B311 力石國男・宮畑信吾・高橋 純(弘前大・理): オホーツク海の海水面積と北日本の豪雪
- B312 力石國男・青木亮太(弘前大・理): 北日本に冷夏をもたらす大気の循環
- B313 西山勝暢・古川洋一(盛岡地台): 岩手県の稲作と気候について

## 大気大循環

座長: 中村 尚(東大・理)

- B314 木村圭司(東大・地理): 冬期北半球高緯度における大陸性高気圧の季節内変化と経年変動
- B315 中村 尚(東大・理): 北半球冬期のブロッキング高気圧の時間発展とその力学
- B316 鬼頭昭雄(気研・気候): 熱帯海面水温と北半球の夏の循環-数値実験から(続)
- B317 二階堂義信(気研・気候): 夏半球の亜熱帯高気圧研究(その5)-再考, 夏半球の亜熱帯高気圧研究-
- B318 佐藤正樹(埼玉工大), 塩原将行(東大・理), 高橋正明(東大・気候システム): 大循環の角運動量収支におけるハドレー循環, 傾圧不安定波の役割
- B319 吉岡真由美・木村龍治(東大・海洋研): 海洋上を吹く風が固体地球に与えるトルク(第2報)
- B320 長谷川 聡・田中 博(筑波大・地球科学), 田口彰一(資源環境研), 平口博丸・筒井純一(電力中研): NCAR/CCM-2のスペクトルエネルギー解析

## 大会第3日〔10月28日〕 9:00~12:30

( )は第2種講演を, ~は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## 気象教育・客観予報・数値予報

座長:高野 功(気研・予報)

- C301 浦野 弘(秋田大・教育):小中学校における気象単元の問題点
- C302 小泉 耕(気研・予報):BP学習法による知能的天気確率予測システム
- C303 野口晋孝・小泉 耕(気研・予報):客観的手法によるエキスパートシステムの作成
- C304 露木 義(気象庁・数値予報):延長予報に対する成層圏の鉛直分解能の影響
- C305 齊藤和雄(気研・予報):非静水圧局地モデルによるメソ風系のシミュレーション(3)-セミンプリシット弾性系モデルの場合-
- C306 田宮久一郎(気研・予報):Semi-implicit semi-Lagrangian modelによる定常3次元山岳波
- C307 真木貴史(気象庁・数値予報):Semi-Lagrangianスキームの調査
- C308 笠原 彰(NCAR):降水量推定値を用いて熱帯における発散と水蒸気場の客観解析を改良する試案[S]
- C309 加藤輝之・齊藤和雄(気研・予報):Non-hydrostaticとHydrostaticとの比較数値実験~格子サイズを20km以下にした場合の降水に与えるインパクトについて~
- C310 S.Kurita(気研・応用):Radiative Upper Boundary Conditions for Non-Hydrostatic Internal Gravity Waves

## メソ降水系 I

座長:赤枝健治(気研・台風)

- C311 三角幸夫(気研・予報):周辺の海域を含む日本列島の降水日変化
- C312 加藤内蔵進・平沢尚彦(名大・水圏研),松本 淳(東大・地理):秋雨前線帯付近の傾圧性の役割に関する一考察
- C313 竹内由美(愛知教育大),加藤内蔵進(名大・水圏研),田平誠(愛知教育大):夏の中国大陸における日変化する積乱雲群の出現時の大気・地面状態の事例解析(1990年盛夏期)
- C314 武田喬男・安寛 聡(名大・水圏研):気象衛星データによる大陸上の雲群活動の日変化の解析
- C315 柴垣佳明(大阪電通大),山中大学・深尾昌一郎(京大・超高層),清水収司・上田 博(北大・理),前川泰之(大阪電通大),佐藤 亨(京大・工),津田敏隆(京大・超高層),渡辺 明(福島大・教育):梅雨季対流圏のMULレーダー3週間連続観測:気象レーダー観測結果との比較
- C316 清水収司・上田 博(北大・理),渡辺 明(福島大・教育),山中大学(京大・超高層),住 明正(東大・気候システム):信楽における梅雨前線の構造の観測(5)-断続的な弱い降雨と強い降雨との比較-
- C317 渡辺 明(福島大・教育),上田 博(北大・理),山中大学(京大・超高層),住 明正(東大・気候システム):梅雨前線のMeso構造V

## 雲物理

座長:水野 量(気研・物理)

- D301 村上正隆・田中豊顕・松尾敬世(気研):AVIOM-III・熱線式雲水量計・FSSPによる雲粒測定と比較
- D302 田中豊顕・蕪澤 浩・村上正隆(気研):低温室を利用した雲粒子(雲粒・氷晶)実験施設[V]
- D303 藤吉康志(名大・水圏研),山田 正(中大・理工),稲毛正昭(三井建設),播磨屋敏生(北大・理):立坑内発生した準実スケールの雲の観測(I)
- D304 福田矩彦(ユタ大),水野 量(気研・物理):液体炭酸を用いた過冷却霧へのシーディング実験[V]
- D305 水野 量(気研・物理),福田矩彦(ユタ大):高過飽和における自然氷晶核の測定
- D306 岩井邦中(信州大・教育),古川晶雄(名大・水圏研):南極ドームF付近での雪結晶の観測例[S]
- D307 高橋 聡・鈴木賢士(九大・理),C.Wang(中国蘭州高原研):中国砂漠域平涼での降水機構-Heifeプロジェクト[S]
- D208 石坂 隆・P. S. Sarwono・杉山 実(名大・水圏研),佐藤昇(大阪府教育センター),石川浩治(東大・海洋研):日本海降雪雲における氷晶発生過程の観測-氷晶増殖過程に着目して-(その2)
- D309 佐藤 昇(大阪府教育センター),石坂 隆(名大・水圏研):日本海降雪雲における氷晶発生過程の観測-氷晶核と雲粒スペクトルの測定(その2)-[S]
- D310 梶川正弘・武藤哲男(秋田大・教育),松尾敬世ほか(気研・物理),中井専人ほか(防災科研),石坂 隆ほか(名大・水圏研):雪片の構成結晶形からみた対流性降雪雲の諸特性(2)
- D311 村上正隆・山田芳則・松尾敬世(気研・物理),J.Marwitz・G.Gordon(Univ.Wyoming):低気圧後面の背の高いSNOW BANDの降雪機構
- D312 齊藤和雄・松尾敬世・村上正隆・水野 量(気研),猪川元興(故人):対流性降雪雲の地形による変質について(3)-氷晶生成項についての感度実験(種まき実験)-
- D313 山田芳則・松尾敬世・村上正隆・水野 量・榊原 均(気研),若波 越(長岡雪水防災研),中井専人・真木雅之(防災科研):孤立型降雪雲の気流構造
- D314 真木雅之(防災科研・つくば),中村秀臣(防災科研・長岡),中井専人・八木鶴平(防災科研・つくば),内藤玄一(防大・地球科学):降雪雲からのガスト(1)形成過程
- D315 中井専人(防災科研),山田芳則(気研・物理),石坂 隆(名大・水圏研),梶川正弘(秋田大・教育),松尾敬世・水野 量・村上正隆(気研・物理):降雪雲の地形変質:寒気吹き出し時の降雪雲の観測事例
- D316 藤吉康志・耿 驎(名大・水圏研),上田 博(北大・理),竹内謙介(北大・低温研),住 明正(東大・気候システム):2つの対流性エコーから発達したレインバンドの構造
- D317 佐藤 薫(東大・気候システム),橋口浩之・深尾昌一郎(京大・超高層):夏の積雲対流の境界層レーダー・MULレーダー観測(2)
- D318 坂井武久・蕪澤 浩・水野 量(気研):ウィンドプロファイラデータを用いた大気現象の解析(2)
- D319 浅野正二(気研・気候):多波長フラックス反射率測定による雲物理パラメータの推定III.層積雲の雲物理学的性質
- D320 中島映至・趙 鳳生(東大・気候システム),久慈 誠・早坂忠裕(東北大・理):大気汚染に伴う低層雲の微物理構造の変質に関する若干の考察

( ) は第2種講演を, ~ は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## B会場

## 大気地表相互作用II

座長: 山崎 剛 (東北大・理)

- A351 近藤純正・中島健雄(東北大・理), 渡辺 力(森林総研): 森林流域における貯留水量と蒸発散量の関係について
- A352 渡辺 力(森林総研): 植生地における顕熱・水蒸気粗度の実験式
- A353 近藤純正・大岡浩明(東北大・理): 簡易型ライシメータによる裸地面蒸発実験
- A354 黄 水鎮(筑波大): 地表面熱収支に及ぼす土壌水分の効果
- A355 仲江川敏之・沖 大幹・虫明功臣(東大・生産研): 土壌水分量の空間変動が蒸発量算定に及ぼす影響について
- A356 高敷 出・三上正男・藤谷徳之助(気研・応用), 加藤英孝(農環技研), 張 希明・朱 衛東(中国科学院・新疆生物土壤沙漠研): タク라마カン砂漠土壌の土壌水パラメータの決定について
- A357 玉川一郎・光田 寧(京大・防災研): 水蒸気輸送を考慮した土壌モデル(2)
- A358 小林哲夫(九大・農): 半乾燥裸地面からの蒸発に及ぼす温度勾配の影響について
- A359 小林哲夫・賀 文君(九大・農): リモートセンシングにより乾燥裸地面からの蒸発速度を推定する方法
- A360 鈴木力英・甲斐憲次(筑波大・地球科学): 中国河西回廊のオアシスにおける熱収支特性
- A361 塚本 修(岡山大・教養), 佐橋 謙(岡山大・教育), 玉川一郎・光田 寧(京大・防災研): 砂漠とオアシスにおける熱収支成分の相違について[HEIFE]
- A362 浦生 稔(資源環境研): 砂漠の混合層(その5)
- A363 安田延壽(東北大・理): 湿潤・乾燥混合地の蒸発
- A364 松山 洋(東大・気候システム), 沖 大幹(東大・生産研), 増田耕一(都立大・理): ミシシッピ川の流域水収支に関する若干の考察

## 物質輸送・中層大気

座長: 山崎孝治(気研・気候)

- B351 田口彰一(資源環境研): 対流圏の南北両半球大気の交換月平均の風速を用いた流跡線解析の結果
- B352 中澤高清・下野由美子・田中正之(東北大・理), 山崎孝治(気研・気候): 流跡線解析を用いた日本上空の大気中CO<sub>2</sub>の変動の解釈
- B353 山形齊子・下田晋也(気象協会), 田中 博(筑波大・地球科学): 1993年4月21日に噴火したSheveluch火山の噴煙追跡の結果報告
- B354 川合純子・吉川雅修・片谷教孝(山梨大・工), 村尾直人(北大・工): 3次元全球モデルによる<sup>85</sup>Kr濃度の試算
- B355 下舞豊志・山中大学・深尾昌一郎・津田敏隆(京大・超高層): MUレーダー3週間連続観測結果の時間ウェーブレット解析
- B356 荻野慎也・山中大学(京大・超高層), 柴垣佳明(大阪電通大), 下舞豊志・深尾昌一郎(京大・超高層): 下部成層圏慣性内部重力波の水平規模について
- B357 堤 雅基・吉野議晃・中村卓司・津田敏隆・深尾昌一郎(京大・超高層), H. Wiryosumarto(インドネシア航空宇宙局), SriWoro B.H. (インドネシア科学技術応用評価庁): インドネシア赤道域における中間圏下部熱圏の流星レーダー観測 大気潮汐波
- B358 E. M. P. Ekanayake(九大・理), T. Aso(京大・工), S. Miyahara(九大・理): THE PROPAGATION OF NON-MIGRATING DIURNAL TIDES: A NUMERICAL SIMULATION. PART II
- B359 黒田友二・千葉 長(気研・気候): 帯状対称潮汐が平均帯状風加速に及ぼす影響について
- B360 牛丸真司(沼津高専): 南半球成層圏の季節進行に関する数値実験(I)
- B361 岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 数値予報データ同化により得られた成層圏非断熱加熱分布の解析
- B362 山中大学(京大・超高層): 準単色重力波をパラメタライズした中層大気準一次元大循環モデル
- B363 大石正純・宮原三郎・三好勉信・岩山隆寛(九大・理): ローレンツ力の効果を含んだ中層大気大循環モデル

## 大会第3日〔10月28日〕 14:00～16:30

( )は第2種講演を, ~は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## メソ降水系II

座長: 齊藤和雄 (気研・予報)

- C351 足立樹泰・津田敏隆 (京大・超高層), 増田悦久 (通信総研), 深尾昌一郎 (京大・超高層): MUレーダー/RASSによる梅雨前線の微細構造の観測
- C352 坪木和久 (東大・海洋研), J.York (Univ. Toronto): カナダ東岸沖ラブラドル海上のポーラーロウ
- C353 楠研一・大野久雄・鈴木修 (気研・衛星), 小倉義光 (東大・海洋研): 水戸ダウンバースト 1992年9月4日 III - 発生当時の環境のパラメータ値と前後の日との比較 -
- C354 赤枝健治 (気研・台風), J. Reisner・D. Parsons (NCAR): 対流雲群の発生発達に及ぼす台湾の地形の影響
- C355 藤吉康志・耿驥・吉本直弘・金田幸恵・藤田岳人・田中久理・森昌彦・加藤内蔵進・武田喬男 (名大・水圏研): 上陸するバンド状降水雲の構造と振舞いの研究 - 2台のドップラーレーダによる観測 -
- C356 藤吉康志・藤田岳人・武田喬男 (名大・水圏研), 小尻利治・寶馨・池田繁樹 (岐阜大・工): 風上の地形が濃尾平野の降雪分布に及ぼす効果
- C357 高山大 (気研・予報), 永田雅 (気象庁・数値予報): 冬季北陸沖に見られる2種類の渦状擾乱のふるまい
- C358 和田美鈴・齊藤和雄 (気研・予報): 非静力学モデルによるFrontogenesisの数値実験
- C359 高野功 (気研・予報): 関東南岸の不連続線の数値シミュレーション(3報) - メソ雲システムの発達期について -

## D会場

## 環境気象・霧・都市気象

座長: 沢井哲滋 (函館海洋)

- D351 高橋信英・村尾直人・太田幸雄 (北大・工): 光化学オキシダント生成に対する気温の影響
- D352 村松久史 (京大・防災研): 都市からのメタンの発生 - その1
- D353 井上君夫・阿部博史 (東北農試): やませの霧の層厚の1推定法
- D354 川端隆志・遠峰菊郎・阿部博文・落合健・小滝昇 (防大・地球科学): 三沢市における海霧の係留ゾンド観測
- D355 沢井哲滋 (函館海洋): 北日本沿岸の霧・層雲に関するレビュー - 主として気象官署の予報資料から -
- D356 秋山孝子 (気象協会): 東京湾周辺部の霧
- D357 北原隆朗 (東京電力), 中西幹郎 (気象協会): 都市人工熱が局地気象に及ぼす影響
- D358 菊池幸雄 (東大・気候システム): 一般風が沿岸都市とその周辺の気候に及ぼす影響
- D359 山添謙 (日大・地理), 一ノ瀬俊明 (東大・先端研): 東京およびその周辺地域におけるヒートアイランド - ヒートアイランド強度の季節変動と地域差 -
- D360 藤部文昭 (気研・予報): 関東内陸域における暖候期昼間の高温化傾向について
- D361 巖香姫・小元敬男 (大阪府大・農): 中・小都市における近年の湿度変化
- D362 小元敬男・青野靖之・鯉谷憲・巖香姫・竹村文男・小松良朗 (大阪府大・農): 大都市における不快指数

## 大会第2日〔10月27日〕ポスター・セッション

概要紹介 16:10～16:40; 講演 16:40～17:30

(~~~~は講演者)

座長: 赤枝健治(気研・台風)

- P201 上田和雄(福島大・教育): GMSデータのデータベース化
- P202 青木 孝(仙台管区): 強い台風の発生と経路の経年変化
- P203 寺尾 徹(京大・防災研): 梅雨期・夏季の偏西風帯の季節内変動と日本の天候
- P204 田中 実(気研・台風): アジア・西太平洋・オーストラリア地域における熱帯モンスーンのGMS上層雲量による陸上を含めた開始・終了日の解析
- P205 田 少菴(筑波大・水理実験センター): 夏期アジアモンスーンの季節進行(1)
- P206 遠藤伸彦・上野健一・安成哲三(筑波大・地球科学): チベット高原上の大気境界層の日変化について-CREQ'93観測速報-
- P207 三枝信子(筑波大・生物科学), 近藤純正(東北大・理): 土壤アルベド・蒸発抵抗・間隙内平衡湿度と粒径の関係および土壌面蒸発3層モデルの応答
- P208 二階堂義信(気研・気候): 植生1次元モデルによる地表状態の地上気象への影響評価実験
- P209 山中東裕(東大・気候システム), 田近英一(東大・理): 海洋生物化学大循環モデルによる炭素循環の研究(その2)
- P210 柴田清孝・千葉 長(気研・気候): 鉛直・水平分解能がモデル大気に及ぼす影響について
- P211 早坂忠裕・滝沢 巖・橋田 元・田中正之(東北大・理), 岩坂直人(東京商船大): ビナツボ火山噴火に伴う西太平洋域における日射量の変化について
- P212 田口 真・岡野章一・福西 浩(東北大・理): 可搬型レーザーヘテロダイナミク分光計によるハワイ・ハレアカラ山における成層圏オゾン観測
- P213 牧野行雄(気研), H. Past (AES), 佐々木 徹(気研), 近藤幸治(高層气象台), 二階堂義信(気研): ユーレカにおける成層圏HCl, HFの赤外分光測定; 1993年3月
- P214 小林博和・門倉真二・下田昭郎(電力中研), 西沢誠治(日本分光): 航空機搭載型赤外フーリエ分光計の開発
- P215 江瀬直人(東北大・理): ERS-1 AMI散乱計による海上風の計測
- P216 久慈 誠(東北大・理), 中島映至(東大・気候システム), M. D. King (NASA/GSFC), 早坂忠裕・田中正之(東北大・理): NOAA/AVHRRデータによる海洋性層積雲の雲粒有効半径と鉛直積算雲水量の推定
- P217 沖 大幹・虫明功臣(東大・生産研), 椎貝博美(筑波大), N. Nyawem (マレーシア灌漑局): マレーシア・クチンにおける雨滴粒径分布観測について
- P218 武田喬男・加藤内蔵進・徐 光祥(名大・水圏研): メンスケール雲群の事例解析
- P219 菊地 理・高橋暢宏・上田 博(北大・理), マヌス観測グループ: TOGA-COARE マヌス島レーダー観測(VIII)ースコールラインの解析ー
- P220 齊藤和雄(気研・予報), L. Thanh・加藤内蔵進・武田喬男(名大・水圏研): 紀伊半島の降雨量分布に対する地形の効果(一般風に対する地形の効果の数値シミュレーション)
- P221 桑形恒男(東北農試), 近藤純正(東北大・理), 住岡昌俊(三菱銀行): 海風領域における大気境界層の構造と熱収支
- P222 吉門 洋(資源環境研): 海岸部の都市化による内陸気温と気流の変化(基礎数値実験)
- P223 藤部文昭(気研・予報): 冬の日本海低気圧通過時における関東平野の地上風系の日変化性

ポスター講演者へのお願い

概要紹介は1件1分以内です。ポスターには表題と発表者名を明記して下さい。

ポスターは大会期間中(3日間)を通じて掲示できます。

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。